

第五期長期計画・調整計画市民会議 第5回
傍聴者アンケート(自由記載欄)

1. 今回の市民会議で印象に残った、または興味のある議論や課題がありましたら記入してください。

- 無関心層、若者の市民参加への問題提起。どうにかしていかないといけない。
- 行政の現場に、市民の声をうまく活かすことのむずかしさを感じました。ただ、無関心層の存在、情報格差といった課題がある中でも、今回のような会議は継続していくことに大きな意味があると思います。

「本当に大変な人ほど（こうした市民参加の場に）顔を出せない」という点はその通りだなと思います。

- 市民委員がお若いので、いいですね（私が年寄りになったせいかな）。
5回で終わるのでは不消化で、もったいない。議論すれば、10人の意見は市民全体の広がりある意見になるのではないのでしょうか。下の意見（批判的ではありますが）を議論したり、考えたりする余裕は全くないでしょう。
策定委員会に市民委員2人は少なすぎる。策定委員会は専門委員会です。第5期長計は1人の市民委員しかいなかった。ほとんど発言できなかつた様です。
- 一堂に会して議論をすることで、成立する会議と Web 上の意見交換、情報共有とを合体させるとよいという意見があった。市民の方々は、各々、こだわりや関心のあるテーマが異なるので、相互を知り、踏み込んだ議論をもっとしたいという気持ちが読みとれた。

2. その他、ご意見・ご感想などありましたら記入してください。

- 関心を持たざるを得ないようなシステム作りをしていけたらいいと思います。
- 今回初めて傍聴させて頂きました。市外に居住しているのですが、まず純粋に、市民の方が10名も集まって話し合いが出来ているという点は驚きでした。他の自治体では委員のなり手がいなかったりして実現が難しい中、こうした議論が出来るというのは武蔵野市の一番の魅力であるように感じます。是非、今後共、市民ミーティング、市民会議等のあり方で、先進的なモデルを示せる自治体であって欲しいなと思いました。（16名の応募で「少ない」という感覚は武蔵野ならではだと思いました！）
- 魅力的なまち、憧れのまち、というキーワードが薄っぺらな感じですが、魅力的の中身が語られていないので、この点についてもっと意見交換の場が必要ではないのでしょうか。案によれば、高い税収を維持するために必要なのでしょうか。魅力は高い所得のある人を呼び寄せる為ですか。卓越した自治体、みずから他の追随を許さない秀でた自治体とは何ですか。秀でたとは何に秀でているのか、No.1のみ求めているのか。
- 市民参加の会議として世代交代がされた、新たな段階に入ったという印象。市民ひとりひとりが生活者である。「武蔵野方式」第一期は、在住学者による「市民参加方式」であったが、すでにこの方式は使命を終えている。市民は、計画立案者であり実践者である。計画の進行管理と評価も行う市民自活型に転換する時も近いと考える。